

火災・警戒統計



火災統計 (平成29年中)

火災件数

火災件数は45件で、前年と比べ2件の減少となり、昭和40年以降で過去3番目に少ない火災件数でした。

火災件数を種別ごとにみますと、建物火災24件(53.4%)、林野火災1件(2.2%)、車両火災5件(11.1%)、その他火災15件(33.3%)でした。

住宅用火災警報器の奏功事例

小牧市内では、住宅用火災警報器が鳴動したことにより火災に至らなかった事例が1件、火災にはなったものの被害を最小限にとどめることができた事例が1件ありました。

住宅防火対策として、すべての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けられており、小牧市では、設置率向上と維持管理促進のため、一般家庭の防火査察、防火広報など、あらゆる機会を捉え、普及啓発活動を実施しています。

火災原因

出火原因の内訳の上位は、「電気装置」、「電灯・電話等の配線」、「たき火」及び「放火」がいずれも4件(8.9%)となっており、続いて「たばこ」、「配線器具」及び「放火の疑い」がいずれも3件(6.7%)となりました。

「電気装置」、「電灯・電話等の配線」及び「配線器具」といった電気に関連する火災が多く発生していることから、電気機器等は正しく使うとともに、コンセントにほこりが溜まっていないか、許容電力を超えたたこ足配線をしていないかなど、日頃から各家庭・職場において防火点検を行い、火災の発生を未然に防ぐことが必要です。

火災による損害及び死者・負傷者

火災による損害額は、108,131千円で、前年と比べ87,806千円の増加となりました。これは、損害額が大きい工場及び倉庫の火災が発生したためです。

また、火災によって2名の死者が発生し、負傷者は7名で前年と比べ、1名の減少となりました。